

テーマ

故郷（ふるさと）がすき ひとがすき

公民館等名

松江市 持田公民館

テーマの背景

松江市持田地域の住民が地域を舞台に5カ国の留学生と地域の子どもをキャストに映画「レヒアの風」を制作・上映した。留学生が選んだお気に入りのロケ地が田園や竹林など住民にとって当たり前の場所だった。このことがふるさとのよさを見直すきっかけになり、ふるさとのよさをみんなに知ってもらおうと始めたのが「公民館ふるさと教育推進事業～故郷（ふるさと）がすき ひとがすき～」である。

実際の取組

取組内容：封建の世に誕生（う）まれたラブストーリー「勘助物語」 in 松江北山 はじまりはじまり

<取組の概要>

- ・持田地区の名所「納蔵の白滝」「勘助庵跡碑」「牛・羊・ヤギ飼育農家」などを記載した「まち歩きマップ」を作成。
- ・愛を貫くため松江城下から松江北山に移り住んだ家老の娘菊姫と足軽勘助の物語をモチーフにした「絵馬」を作成。
- ・小学校と地域住民による松江北山ハイキング開催。「まち歩きマップ」「松江北山花図鑑（30年度公民館発行）」を活用。山頂では、夢や希望を描いた絵馬を掲げた。
- ・松江北山を満喫するウォーキング大会開催。「まち歩きマップ」「松江北山花図鑑」を活用。



<成果と課題>

(成果)

- ・松江北山ハイキングに参加した小学生40名が夢や希望を書き込んだ絵馬を山頂に作られた絵馬台に掲げる。絵馬がタイムカプセルとなり、ふるさとと子どもをつなぐ「絆」ができた。
- ・「まち歩きマップ」を活用して松江北山をハイキングする人が増えた。「まち歩きマップ」は、市内だけでなく県外からも注文があり、人が人を呼んでいる。

(課題)

事業の継続と新たなまち魅力づくりが課題。



まとめ

テーマに迫るためのポイント

ふるさと教育は、1回のイベントで何かをやり遂げたと満足するのではなく、継続的な取組、未来の成果につなげる取組が重要。

これまで、持田を舞台にした住民参加の映画制作は6年継続して行っている。「絵馬」の活用は、10年後、20年後につながるしかけになった。



今後の展望

本年も公民館に新成人を迎えて「新成人の集い」を開催した。参加者は小学生時代のふるさとの思いや希望などについて賑やかに歓談した。「持田が好き」「ふるさとに残って働く」といううれしい声も多数の参加者から聞かれた。

「ふるさとが好きになれば、人が好きになる」「人が好きになれば、ふるさとが好きになる」をモットーにふるさと教育をすすめる。



(文責：館長 野津 篤)